

## 一橋大学哲学・社会思想学会第13回総会議案書

2019年6月1日

(1) 2018年度の活動報告(前回総会以降) \* 敬称略

① 研究大会の開催

第23回大会(通算53回) 2018年6月2日(土)、職員集会所大広間 参加者 33名

【個人研究発表】

13:00—14:30 横山 陸(一橋大学) 司会 大河内 泰樹

「二十世紀ドイツにおける聖なるものの共同体論について

—シェーラーとフォン・ヒルデブラントにおける宗教現象学の視点から—

【総会】

14:30—14:50 議案了承

議長 森村 敏己

【シンポジウム】(国内交流セミナーを兼ねる)

14:30—17:30 「学問の世俗性と宗教言説」

司会・趣旨説明 坪光 生雄

報告1「宗教的『教義』としての社会学—コントの精神的権力論」 杉本 隆(明治大学) 報

告2「キルケゴールを論じるものの実存」 須藤 孝也(一橋大学)

報告3「英領インドにおける『宗教』言説:

ガンディー研究者としての立場から」 間 永次郎(学振・東京大学)

【懇親会】職員集会所食堂

2019年5月15日発行

第24回大会（通算54回）2018年12月1日（土）、職員集会所

参加者 23名

【個人研究発表】

- 10：30—12：00 村山 正碩（一橋大学） 司会 井頭 昌彦  
「画像における情動表出の多様性」
- 13：00—14：30 岩井 洋子（一橋大学） 司会 井頭 昌彦  
「田辺元の国家論と同時代の国家論  
—国家法人説、国家有機体説、国体国家論との比較—」
- 14：40—16：10 淵田 仁（一橋大学） 司会 森村 敏己  
「18世紀フランス経験主義における『事実』の理論的地位について」

【マルクス生誕200年記念企画】（国際交流セミナーを兼ねる）

- 16：20—18：10 明石 英人（駒沢大学）  
「物象化のもとでの『普遍的資産』と所有権原理—ヘーゲル・マルクス関係の一考察—」  
司会 島崎 隆 特定質問者 菊地 賢、久富 峻介

【懇親会】職員集会所食堂

② 学会発表者の募集（年2回）

- 1、2018年冬大会の募集・・・5月8日付（応募期間6月11日～7月8日）  
同上再募集・・・7月23日付（応募期間8月20日～8月31日）
- 2、2019年夏大会の募集・・・12月17日付（応募期間1月15日～2月7日）  
応募者不在のため、依頼により発表者を決定。

③ 「一哲学会報」の発行

【第29号】（2018年11月29日発行）

第24回冬大会案内／個人研究発表要旨／記念企画報告要旨／夏大会シンポジウムのまとめ／  
夏大会個人研究発表のまとめ

【第30号】（2019年5月15日発行予定）

第25回夏大会案内・総会案内／個人研究発表要旨／24回冬大会個人研究発表のまとめ／第13  
回総会議案書／第26回冬大会の個人研究発表の募集

※年3回発行予定であったが、院生の業績、各ゼミ生の研究テーマについて掲載する号の発行機会を逸した。

④ 総会・幹事会

- 第12回総会 2018年6月2日（土） 議長 森村 敏己  
第1回幹事会 2018年7月24日（火） 社会思想共同研究室  
第2回幹事会 2019年4月24日（水） 社会思想共同研究室

⑤ 渉外関係・・・特になし。

⑥ 学会ホームページ

HPの更新・管理を助手が行った。また、図書館の機関リポジトリ（Hermes-IR）に「一哲学会報」の登録を行った。本ホームページから図書館がダウンロードして掲載（8号から29号まで）。

\* 会計記録

旧哲学・社会思想研究会から引き継いだ現金（昨年残額3063円）に、6月の懇親会の残額1430円、12月の懇親会の残額990円を算入し、残額5483円になった。なお、本学会は学会費を徴収しない。

(2) 2019年度の活動計画

- ① 研究大会の開催
  - 第25回大会(2019年6月1日)
  - 第26回大会(2019年12月7日予定)
  - (第27回大会の準備2020年6月第1土曜予定)
- ② 個人研究発表の募集の告知・・・年2回(11月、5月)、会報に掲載。
- ③ 「一哲学会報」の発行(年2回を予定)11月発行、2020年5月発行
- ④ 会員名簿の整理・管理。
- ⑤ 次期総会の準備(2020年6月)、及び、次年度の事業の準備。
- ⑥ ホームページの管理。

(3) 学会幹事の提案

2019年度の幹事として以下の者を提案する。なお、院生幹事の交代、退任等は幹事会で承認する。\*氏名の敬称略。

教員幹事 井頭 昌彦 森村 敏己  
 院生幹事 大和 慶之(大河内ゼミ)、川村 勇貴(井頭ゼミ)、濱本鴻志(井頭ゼミ)  
 青木 崇(加藤ゼミ)、菊地 賢(森村ゼミ)

学外幹事 杉本 隆司

\*助手の定年退職により、助手幹事を廃止するが、当面は移行期間として新体制の構築まで幹事会の補助にあたる。

\*本学会の教員幹事は、旧研究会から引き継いだ輪番表(2003年3月5日決定)に基づき、負担が公平になるように、交替制で担当することになっている。ただし、輪番表に含める教員については、必要に応じて見直しをする。

	加藤	森村	大河内	井頭	学外
2015年	○	○		◎	
2016年	◎	○	○		明石英人
2017年		◎	○		明石英人
2018年			○	◎	杉本隆司
2019年		○		○	杉本隆司
2020年		○		○	

◎は、代表幹事を表す。代表幹事1名は、2013年度から導入。

2017年度に共同研究室所属教員が5名から4名に減少したことに伴い、以後、学内の教員幹事数を2名とした。(2019年10月大河内先生転任、2020年3月加藤先生ご退職)

(4) 会則改正の提案(別紙参照)